



疱瘡流行の節貴賤中も小児の夭折夥し然るに近年阿
 蘭陀より種痘といふ事傳りて世間は廣り安や中ち有事
 ありと云佐倉清醫師も右種痘の法を傳受し追て試の靈痘
 瘡至て軽く掃ふ數多きも阿蘭陀安や中ちあり於江戸表も
 御姫様方種痘至て軽く掃ふ數多きも阿蘭陀安や中ちあり於江戸表も
 良法ある事明白に自此度於醫學所惣清醫師に種痘施療
 治に仰付り御領分中在町大小の百姓町人痘瘡前の小兒
 有之者ハ時節とき以て聞合せ醫學所に連來り共又ハ二村限り
 申合願來りゆは清醫師の内其村に相越療治致しを答故
 醫學所迄申込種痘いさせり無滞仕上りハ人別々應じ清
 醫師ハ陰徳講金の内より藥種料をされり間には禮物等の
 心配なく貧富にかたがは療治受てり尤醫師の中あもい出
 づ種痘の良法ある事を辨へず彼是難し者も有之りは共近頃
 清朝より引痘新法全書と云書物渡り西西洋種痘の良法あ
 る事を業明有るに猶疑しかり者ハ三四年來蘭法種痘の
 させり者ハ算合せり善惡分明におかり事同し種痘法に
 も昔より傳り所の漢法と鼻の内を藥を吹入り大に害ある事
 必用し申問敷り且又遠國に清領分ハ其村方志有るに醫師
 佐倉に相越蘭法種痘の法を傳受し村に施し可申也
 佐倉醫學所 宮小路より南に曲り角屋敷

嘉永二年己酉十二月 佐倉子育方役所

